

〔団体の概要〕 (NPO用)

団 体 名	河川環境健康問題研究所		
所在地	〒 880-0211 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下田島 1 9 6 5 7 TEL: 0985(73)3123 FAX: 0985(73)2901 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	平成 7 年 4 月		
代表者	富 士 持 吉 人	担当者	富 士 持 吉 人
組 織	意思決定機構	役員会	
	事務局スタッフ	2 名	
	会員制度 (あり・なし)	個人会員 5 0 0 名	団体会員 9 名
設立の経緯	平成 7 年 3 月、富士持吉人は宮崎県公立学校を定年退職した。教え子や周囲から「研究活動を続けて欲しい」との声もあり、ボランティア活動として継続するため「河川 環境 健康」をテーマに設立した。		
団体の目的	21 世紀 是非残したい「アカウミガメ・クサガメ・メダカ・タナゴ・サンショウウオ等絶滅危惧種が絶滅の危機」、必要に応じ役所にも相談して「育てる・守る役割」を果たすことを目的とする。		
団体の活動 プロフィール	平成 7 年 4 月 故郷の「地層・森・川・海岸の宝発見非営利研究所」で発足 平成 9 年 2 月 所長 佐土原町環境保全対策協議会委員(学識経験者)就任 平成 11 年 5 月 学習団体「佐土原四万十会 (地元住民主体団体)」を設立 同年 6 月 学習団体「宮崎 R C 関連宮崎プロバスクラブ」設立発起 平成 13 年 2 月 啓発活動「第 1 回 日向灘ウミガメサミット」を開催 同年 5 月 教育団体「アカウミガメの産卵地を育てる会」を設立 平成 14 年 2 月 啓発活動「九州環境ボランティア会議」を熊本県で開催 同年 3 月 活動団体「師弟ネットワーク(師弟で全県ネット)」を構築 同年 8 月 啓発活動「第 2 回 先住生き物 ウミガメサミット」準備中 平成 15 年 7 月 啓発活動「九州 (全国) 環境ボランティア会議」準備中		
財 政	活動事業費 (平成 13 年度)	2 0 0 ・ 0 0 0 円	

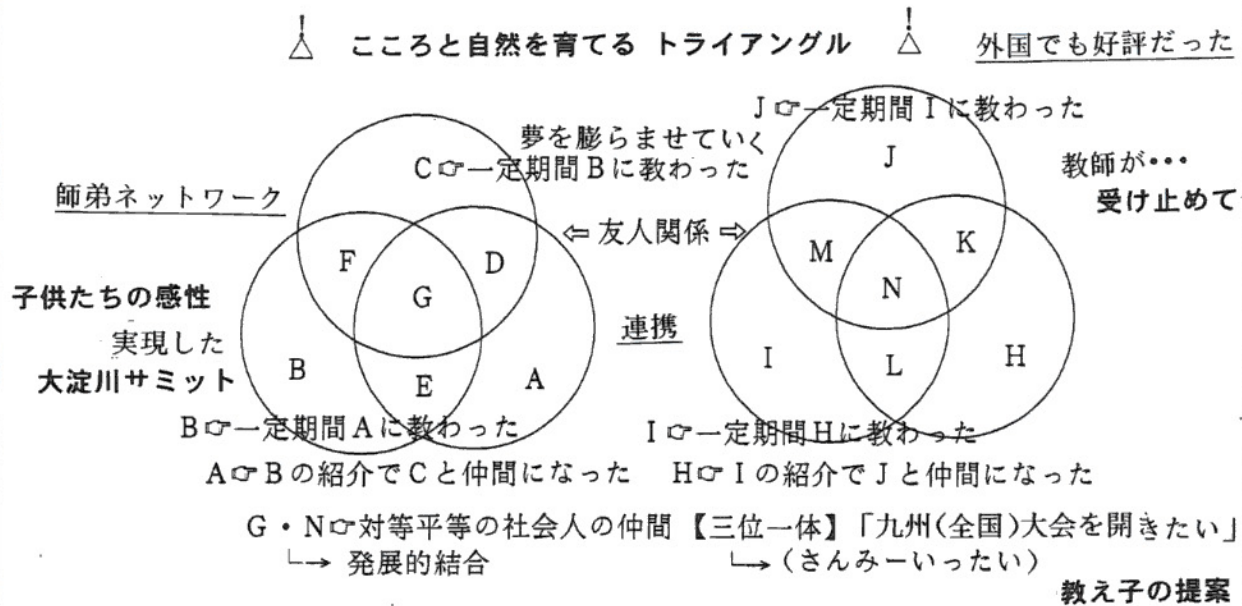
平成14年度「NPO・企業環境政策提言」応募用紙（案）

団体名	河川環境健康問題研究所	担当者名	富士持吉人
-----	-------------	------	-------

〔政策提言の内容〕

政策のテーマ	こころと自然を育てるための師弟ネットワークづくり政策		
政策の分野	番号		師弟ネットワークで 環境問題の啓発活動
政策の手段	番号		人間関係を重視した『人の環(和)』づくり を考える
① 政策の目的			
師弟ネットワーク宮崎は、57歳から20歳までの異年令・異業種ネットワークである。対等平等の「人の環(和)を創り」、身のまわりの自然や今の生活を見つめる中で、人と地球(日本)の未来を考え、『質の高い生活のできる生活を目指す』ことを目的とする。			
② 提言を行うこととなった背景および現状の問題点			
人の環を創るには「師弟の人間関係づくり」が、身近で、分かりやすい。 師弟ネットワークにはさまざまな環の可能性がある。スポーツクラブにはスポーツの師弟があり、カラオケにはカラオケの師弟があり、学習塾には学習塾の師弟がある。 問題点は、教わる者、教える者、「学ぶ・育てる人間関係」、豊かな人間性がどのように醸成されるか、「環境問題は『善』である」という思いがポイントになろう。			
③政策の概要			
師弟ネット教え子の提案を実現した実践事例 ① <u>大淀川で中学生と河川環境の学習をしていたら、水性生物の生息状況が年々変化した。</u>建設省のBOD検査で、大淀川は九州20河川中ワースト3・2・1と変化していた。卒業生や中学生の <u>私たちの時代はどうなるか 大人に知らせ考えてもらおう</u> との提案を受け、流域8自治体と相談して「<u>第1回 大淀川中流サミット</u>」を実現した。 教え子の“心”を受け止めるのは教師であり、この提案をいち早く理解してくれたのは婦人会だった。やがて提案の輪は広がり、翌年から流域16自治体が参加した全流サミットに変わった。 <u>師弟ネットの提案『大淀川サミット』は全国のモデルにもなった。</u> ② <u>師弟ネットワークが主体的に取り組み、02年8月宮崎県佐土原町で「第2回先住生き物(天然記念物アカウミガメ)サミット」を開催する。</u>引き続き03年7月、宮崎市青島少年自然の家で「九州(全国)環境ボランティア会議」を開催すると張り切っている。 教え子たちで組織する師弟ネットワークは、教え子の少ない地区ではNPO法人と連携して全県ネットを構築、<u>環境活動団体として始めて全県ネットで活動することになる。</u>また、<u>外国で師弟ネットワークを説明したら『外国でも好評』だ</u>との報告もある。			

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートをつけてください）



⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

昭和32年から38年間7校の有志25人が発起人で結成、教え子が中心になった実施主体、教え子の少ない地区はNPO法人と連携し、全県ネットワークを構築した。

- 1、実施主体
 - ①師弟ネットワーク本部
 - ②師弟ネットワーク県北支部
 - ③師弟ネットワーク県央支部
 - ④師弟ネットワーク県南支部
- 2、連携団体
 - ⑤都北地区 NPO法人 ウェルネス河川愛護協会
 - ⑥日南地区 NPO法人 グローバル21
 - ⑦海岸連携 海亀守る有志議員の会

⑥ 政策の実施により期待される効果

師弟ネットワークで期待されるもの

- ① 環境問題に取り組む 人の環(和)が創りやすい。教わる者、教える者の間には人として安心してネットワークが構築できる。活動に当たってもお互いの長所・短所が良く分かっており安心して、気軽に取組めるという利点がある。
- ② 転勤のある学校の師弟でネットワークが組めると、県内の広い範囲で構築できる。私の事例では、県北3校13年・県南1校5年・県央3校20年で、勤務経験のない都北地区と、過疎の県南地区でNPO法人と連携して全県ネットが構築できた。
- ③ 県外の大学に勤務している教え子は、勤務先で「地元民と連携し師弟ネットワークを構築、開かれた大学」に貢献している。外国でも『日本の文化』として動きはじめた。

⑦ その他・特記事項

- ①師弟ネットは、環境活動以外でも「異年齢・異業種交流」の新しい人間関係を醸成した。
- ②13年2月の第1回 日向灘ウミガメサミットは、教師の全県ネットワークで開催した。
- ③14年8月の第2回 日向灘先住生き物（天然記念物アカウミガメ）サミットは、教師ネットに 師弟ネットが加わり、「人の『環』が大きく」膨らんだ。